

スクーリングでの プレゼンテーション教材の 利用について

岩手県立宮古高等学校通信制
神谷 亜紀子

岩手県立宮古高等学校通信制課程

- 昭和49年4月、岩手県立宮古高等学校の校舎に、岩手県立杜陵高等学校通信制課程の宮古分室設置
- 平成30年4月、岩手県の県立高等学校再編計画に基づき、岩手県立宮古高等学校通信制課程となる(宮古高等学校は、全日制・定時制・通信制併置)
- 北は久慈市から南は陸前高田市まで、岩手県沿岸地域の広い範囲から生徒が通学
- 教職員は副校長1名、常勤教員6名、非常勤講師4名(養護助教諭を含む)
- 発表者は、平成27年4月から令和3年3月まで在職

教育課程

- 基本的には日曜日のみ、標準4年の教育課程
- 0単位で入学し3年間での卒業を目指す生徒を主な対象とした、水曜スクーリングも開講
- 単位制ではあるが、実際は学年制に近い年次進行(スタッフの人数に限りがあるため)

令和2年度受講生徒数(延べ数)

		20生(1年次)	19生(2年次)	18生(3年次)	29以前生(4年次)	計
男	一般入学	2	1	1	0	4
	転籍・転入学	8	5	3	2	18
	編入学	0	0	0	1	1
女	一般入学	4	2	0	0	6
	転籍・転入学	5	7	7	1	20
	編入学	4	2	2	1	9
計		23	17	13	5	58

一般入学 17.2% (10/58人)
 転籍・転入学 65.5% (38/58人)
 編入学 17.2% (10/58人)

入学者に占める転編入学者の割合
 令和2年度 73.9% (17/23人)
 令和元年度 75.0% (15/20人)
 平成30年度 95.0% (19/20人)
 平成29年度 69.2% (9/13人)
 平成28年度 60.0% (9/15人)
 ※ 後期 (H28は年度途中) の転編入学者を含む

進路		男	女	計
進学	大 学 ・ 短 大	0	3	3
	高等・准看護学校	0	0	0
	専 門 ・ 各 種 学 校	2	0	2
就職	宮 古 地 区 管 内	2	2	4
	岩 手 県 内	2	3	5
	岩 手 県 外	0	0	0
	アルバイト・家事	0	1	1
合 計		6	9	15

《参考》

進学先：山形大学人文社会科学部人文社会科学科、尚絅学院大学心理・教育学群心理学類

岩手県立大学宮古短期大学部経営情報学科

専門学校HAL東京、岩手県立宮古高等技術専門学校金型技術科

就職先：株式会社オーレックス岩手工場（管内）、特定非営利法人ふれあいステーション・あい（管内）

株式会社平成GUARD（管内）、本間物産株式会社マルホンカウボーイ宮古店（管内）

株式会社アスター ホテル紫苑（県内）、盛岡水産株式会社（県内）、ヘアサロンポプラル（県内）

株式会社ヒラトヤ（県内）、UTエイム株式会社（県内）

学習面の課題

- 長期の不登校経験者が多く、高等学校に入学した経験の有無にかかわらず学習習慣が定着していない生徒が多い
- 学校生活・学習活動に苦手意識を抱える生徒が多い
- 経済的な困難を抱える生徒も多く、教科書・学習書以外の学習教材を購入させるのが難しい

学習指導の基本姿勢

- 「スクーリング」を受け、「レポートを作成する」サイクルを作らせる
- 「自分でレポートを解く」感覚を得させるためのスクーリング
- できるかぎり、全日制・定時制における「授業」に近いスタイルで実施（スクーリング内での「レポートを解く時間」を設けない）

導入のきっかけ

- それまでも、地図・地球儀等は利用していたが、授業内容の「見える化」で興味を引きたい
- 文章だけでは理解の難しい内容について、理解を深めるための材料がほしい
- 副教材（図録など）の導入も検討したが、スクーリングの時間内で使い方を指導するのが難しい
- アクティブラーニングの要素を導入できないか？（レポートを「学習の振り返り」にしたい）

スクーリングにおける実践

- アニメーションを利用した「流れ」や「見方」の提示
- 統計データや資料を提示し「見るべき内容」を確認
- 発問、テーマの提示
- 生徒には、プレゼンテーション内容をプリントアウトして配布。スクーリング時の補助教材という位置づけ

導入の効果

- スクーリング時の生徒の反応の変化
- レポートが「解けない」ときの対応への利用
- 学習に関するアンケートでも、「プレゼンテーションとプリントが便利・面白い」という反応
- 地歴科目に対する拒否反応が改善された生徒の出現

今後の課題

□内容の改善

□より双方向性を持たせる方法はないか？

→今年度から、岩手県では生徒にもマイクロソフトアカウントを配布。

Teamsなどを活用したデータのやりとり等が可能に。

→紙で配付していた資料を、「動くデータ」のまま渡すことができる
情報の追加、質疑応答も可能。生徒・教員双方に利益
(スクーリングを欠席した生徒への対応、という点でも効果的)